

●民間受託研究

ブロッコリーの品種特性

平成21～22年（2年間）

道南農業試験場

共同（協力）機関 （北海道農政部食の安全推進局農産振興課・せたな町農業センター・札幌市農業支援センター・（財）道央農業振興公社・厚沢部町農業活性化センター・士幌町農業試験センター・弟子屈町農林課・中標津町農協）

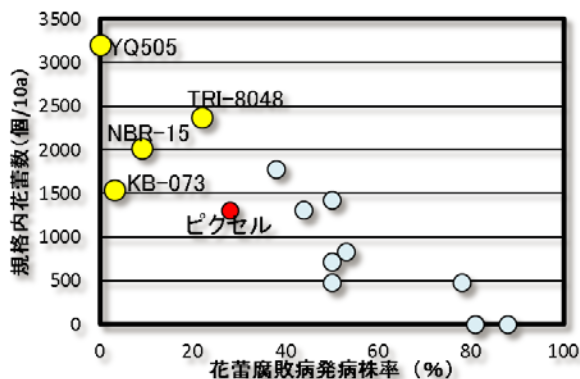
Abstract 概要

食料の安全・安心に対する意識の高まりから、消費者からは国産ブロッコリーの安定供給が望まれています。しかし、北海道におけるブロッコリーの生産は、不整形花蕾や花蕾腐敗病が発生しやすい夏秋期にあたるため、収量の変動が大きい傾向にあります。野菜品種の多くは、本州の民間企業や府県での育種が多いため、道内産地が地域に適した品種を選択するためには多くの時間と労力が必要となります。

このため、道南農試は、道農政部食の安全推進局農産振興課の「道産野菜シェア奪還緊急対策事業」による品種特性調査を実施している道内7地域農業技術センターと連携し、ブロッコリー18品種の特性を明らかにしました。花蕾腐敗病の発生が少なく収量性に優れる4品種、ボリューム感など花蕾特性に優れる2品種、早期収穫が可能な1品種を見いだししました。成果は、地域農業技術センター、農業改良普及センター、農協を通して活用されています。

Results 成果

1 晩春まき作型の有望品種（播種5月中旬～6月上旬、収穫8月）

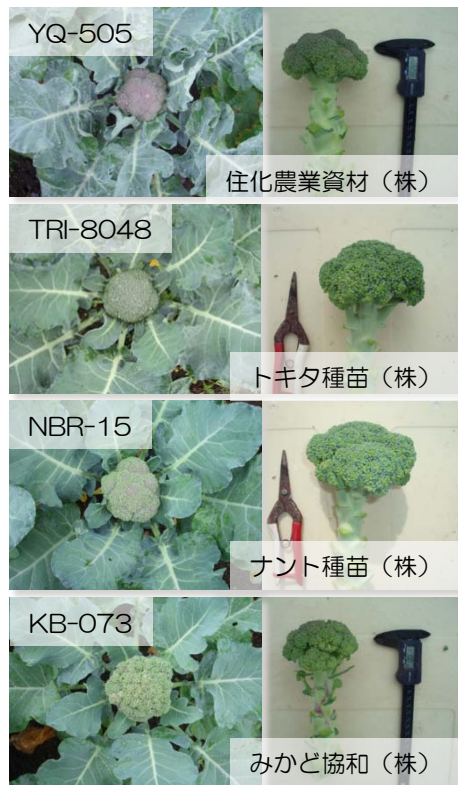


図－1 晩春まき作型における各品種の花蕾腐敗病発病株率と規格内花蕾数

■ブロッコリー品種「YQ505」「TRI-8048」「NBR-15」「KB-073」は、標準品種「ピクセル」より花蕾腐敗病の発生が少なく、収量性（規格内花蕾数）が「ピクセル」より優れていました。

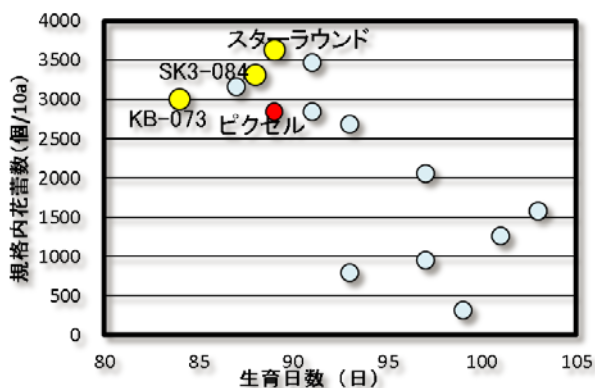
このうち、「YQ505」は、花蕾のしまりが堅く圃場での収穫適期が長いので、大きな規格での収穫が可能でした。アントシアン着色が強い傾向でしたが、加熱によりアントシアンが軽減されるため、加工用途にも適すると考えられました。

「KB-073」は、花蕾のしまりやボリューム感が劣るものの、供試品種の中で最も生育日数が短く、安定した早期収穫が可能と考えられました。



Results 成果

2 初夏まき作型の有望品種（播種6月中旬～7月上旬、収穫9月～10月）



図一 2 初夏まき作型における各品種の生育日数と規格内花蕾数



■初夏まき作型では、「SK3-084」「スターラウンド」が、収量性および花蕾特性に優れていました。両品種は、晩春まき作型でも比較的評価が高く、安定していました。

[illegible]

3 全18品種の特性を一覧表に

■試験に供試した全18品種の特性一覧表を作成し、道総研のWEBに掲載しています。

さらに各地域農業技術センターの試験データも含め、詳細な試験結果や多数の写真をもとめた資料を作成し、生産者や農業指導者が出席する北海道農政部主催の野菜セミナーで配布しました。

<http://www.agri.hro.or.jp/center/kenkyuseika/ippan23.html>

[illegible]

図-3 データや写真の豊富な野菜セミナー資料

Activities 業績

【発表論文等】

菅原章人（2010）ブロッコリーの品種特性。野菜セミナー資料
菅原章人（2011）ブロッコリーの有望品種。ニューカントリー、（8）印刷中
菅原章人（2011）ブロッコリーの品種特性。農家の友、（10）印刷中

【研究成果入手先】

道総研農業研究本部の「農業技術情報広場」で、本成果に関する概要(pdf)を公開。

<http://www.agri.hro.or.jp/center/kenkyuseika/iippan23.html>

Dissemination 普及

■本成果は、平成23年1月に北海道農業試験会議（成績会議）で指導参考事項と認定されました。道内各地の農業改良普及ヤンターを通じて、普及に移されています。

■詳細な試験結果や多数の写真をまとめた資料を作成し、北海道農政部主催の野菜セミナーで配布しています。

Contact お問い合わせ

農業研究本部 道南農業試験場
研究部 地域技術グループ

【電話】 0138-77-8116

【メール】 donan-agri@hro.or.jp

【ウェブ】

<http://www.agri.hro.or.jp/center/index.html>